

## 9月 ホットニュース

真夏日が続く9月から寒さに包まれる12月までの2学期がスタートしました。子どもたちの歓声にあふれる幼稚園は活気を取り戻しています。でも、夏休みを経た子どもたちの心と体が元通りになるのに少し時間がかかりそうですね。

2023年 9月 13日

以前、福山市内のある会社の社長さんと話しながら、「これだけは小中学校でやっておいてもらいたいことってありますか？」と尋ねたことがあります。するとその社長さんは、『ありがとうございます』と『すみません』くらいは言えるようにしておいて！』と言われました。

その方の会社は国内外に2,000人の社員を抱えているそうです。毎年新入社員が入ってくると先輩社員が教えたり助言したりしながら業務を進めます。新入社員がもたつくのはやむを得ないことですが、そんな時に「すみません」も「ありがとうございます」も言わない者がいる。“むむっ”と思っていた先輩たちは、それが続いてしまうと“せっかく親切にサポートしたのに・・・”と少しずつ距離をとるようになる。やがて「お願いします」も言えない新入社員は業務に行き詰るようになり、辞めてしまう者もいる。

社長としては、せっかく採用した優秀な人材がそんなことで辞めていくのは耐え難い。「すみません」と「ありがとうございます」が言える人は、基本のあいさつはもちろん「お願いします」も言えるはずだということです。

1学期末に保護者アンケートにご協力いただきました。その中で最も肯定的な回答率が低かったのが、【子どもは登園時、あいさつができる】でした。

ひとつの考え方ですが、わが子をあいさつができるようにするには、朝、自宅で起きて顔を合わせた時に、家族が互いに「おはよう」と言い合えるようになりさえすればいいと言われます。“身近かすぎるゆえに気恥ずかしい”とか“家族なんだから挨拶なんか必要ないだろ”などの感覚を越えて「おはよう」が言えるなら、他人にもあいさつができるようになるということなのだと思います。さらに、「おはようございます」が言えれば、「こんにちは」「さようなら」はもっと簡単なはずだそうです。

とはいえ、毎朝家族から「おはよう」と言ってもらえれば、子どもの気持ちはほっとするでしょうし安心感も抱くでしょう。顔を見て声をかけると、わが子の体調や気持ちのコンディションがどうであるかは一目瞭然でしょう。いずれにしても、親子にとってのいい1日のスタートのカギともいえます。もちろん、私たち職員も明るいトーンのあいさつができる人でありたいです。

月組の部屋が何かのテーマパークになっています。



黙々と… 砂場には <sup>あうん</sup>阿吽の呼吸が・・・



先生に押ししてもらったように押すね。



先生、手伝わなくていいからね。

交通安全教室。真剣に、楽しそうに聞ける子どもたちです。



花組恒例 遊びの終わりには靴箱に向かって全員かけっこ。